〔事務局〕 〒253-0044 茅ヶ崎市新栄町 13-29 茅ヶ崎商工会議所 3 階　TEL：0467-83-6060　FAX：0467-83-9915
メール：c3rc@io.ocn.ne.jp　〔例会場〕〒253-0073　茅ヶ崎市中島 1341　コルティーレ茅ヶ崎　TEL：0467-87-0002

2024 年 11 月 28 日（木）**第3085回例会**　天候：晴れ　司会：小澤雅彦副幹事　No. 19

＝本日の例会行事＝

◇歌唱　「それでこそロータリー」　◇会長挨拶　◇幹事報告
◇委員会報告［会員増強　他］　◇卓話　ゲストスピーカー　関口直美様　（平塚湘南ＲＣ・地区平和フェロー・奨学金委員会委員）『ロータリー財団奨学生（石井あゆ美さん）について』

◎ゲスト・ビジター紹介
関口直美様（ゲストスピーカー　平塚湘南 RC）

◎幹事報告
◆ガバナー事務所より
◇２０２４－２５年度 危機管理セミナー開催のご案内
◉２０２５年 1/１８（土）　１３：３０～１６：００
◉藤沢商工会館ミナパーク６階「多目的ホール」
◆タウンニュース

◎委員会報告
会員増強［平賀会員］：11/28 会員増強委員会の確認
親睦［樋口会員］：12/19 クリスマス家族会告知

◎スマイル報告　細井年春会員

関口直美様（平和フェロー奨学金委員会・平塚湘南 RC）本日は財団学友のビデオの運搬係としておじゃましました。よろしくお願い致します。

杉田祐一君＆木村信一君　元宝塚星組・関口直美さん、本日は卓話よろしくお願い致します。お勉強させて頂きます。

加藤　寛君　クリスマス家族会にム・ロットの御家族（カンボジアからの米山）宋姿淼（台湾からの米山）が来てくれます。そしてリムロットのホストの程島先生も来てくれます。皆様、宜しく。

田中賢三君　関口さん、大変お世話になり、有難うございます。本日の卓話、よろしくお願いします。加瀬さん、毎年便利なカレンダー有難うございます。

成田栄二君　ゲストスピーカー関口様、卓話よろしくお願いします。

和田幸男君　ゲストスピーカーの関口さん、卓話よろしくお願いします。

中山冨貴子君　関口様ようこそお越し下さいました。

吉田恵子君　今朝の富士山は最高にきれいでした。今年に入ってから初めてでしたね。関口様卓話楽しみです。

大箭剛久君　関口さん、今日はよろしくお願いします。先週末は K-POP のダンスをしている娘の学園祭があり、その舞台を見に行ってきました。我が娘のことながら、キレッキレのダンスを見て、最近オシッコのキレの悪い私としては少しでもあやかりたいと思った次第です。

富田桂司君　皆様今日は。ゲスト関口様ようこそ。昨日は定期検診にて山鉄ビルにある石黒クリニックにうかがいました。結果、糖尿病予備軍に入隊決定となりました。お土産にお薬を倍もらって下さいとのこと。皆様も健康にはお気を付けくださいませ。

杉本剛昭君　関口直美様、ようこそお越しくださいました。卓話よろしくお願い申し上げます。本日農業委員会のため早退させていただきます。ごめんなさい。

伊藤和明君　昨日ゴルフコンペ参加の皆様おつかれ様でした。楽しい時間をありがとうございました。

秋本一茂君　昨日はゴルフコンペ楽しい一日でした。おかげで今日は筋肉痛です。

平賀裕祥君　関口様、いらっしゃいませ。卓話楽しみにします。

樋口康雄君　関口様、本日はようこそ。卓話楽しみにしています。クリスマス家族会に皆様のご協力たまわりまして、ありがとうございます。

大森翔平君　先週は茅ヶ崎駅南口植栽事業にご協力いただきありがとうございました。滞りなく終えることができました。関口様、卓話宜しくお願い致します。

出席報告　上原幸作会員

日時	回	現会員	計算会員	出席	MU済	欠席	暫定出席率	修正出席率
11／28	3085	46	43＋2	33	0	12	73．33％	
11／14	3083	46	43＋2	29	5＋0	11	75．56％	**75．56％**

上原幸作君　関口様ようこそ。ロータリー財団奨学生について拝聴させていただきます。どうぞよろしくお願いします。

島崎英之君　関口さんようこそお越しくださいました。卓話宜しくお願い致します。

榊　謙二君　関口さまようこそいらっしゃいました。卓話宜しくお願い致します。

安武　勝君　関口直美様ようこそ。卓話よろしくお願い致します。

［本日 20 件、27,000 円です］

卓話　ゲストスピーカー関口直美様
「ロータリー財団奨学生・石井あゆ美さんについて」

グローバル奨学生　石井あゆ美
・2022~2023 年度　第 2780 地区グローバル奨学生
・推薦：相模原 RC
・進学先：イギリス University of Sussex MA インターナショナル education コース
・主な研究テーマ：途上国における女子の中途退学抑止政策
・出身校：神奈川県立弥栄高校国際科、青山学院大学地球社会共生学部

公立小中学校はいろんなバックグラウンドを持つ子どもたちが集まっているような学校で、同級生の女の子たちが何人か望まぬ妊娠をしてしまって、学校を中退したり、あるいは高校に行けなかったり、大学に行けなかったりといった状況をずっと見てまいりました。その後弥栄高校国際科に進み、途上国支援等に興味を持ち、大学では主に国際協力であったり、ジェンダー教育について学んでまいりました。その中でとりわけ南アジア地域、インド、ネパールといった地域に関心を持ちました。それらの地域では幼児婚によって学校を中退せざるを得なくなってしまうというような問題があるということを知りましてすべての子供たちが学び、自由に将来を選択できるようなええ、国際支援業務というものに興味を持ち志すようになりました。

進学先の University of Sussex は開発学分野、いわゆる途上国支援の分野で世界ランク 1 位の大学となっております。そのため、途上国支援に関わるコースが多様でして、私の MA インターナショナルデュレーションディベロップメントも、その開発が関連のコースのひとつでした。コースの期間は日本の大学院と比べて短く一年でして、2023 年 9 月から 2020 年の 9 月までイギリスの方に行きました。そしてコースの人数もかなり多くて 50 人でして、その半数以上は途上国出身の方々です。例えばアフリカ、あるいは南米、南アジア、東南アジア、といった地域の人々に私たちアジア人、あるいはアメリカ人、イギリス人など本当に世界の縮図という感じでした。

私のホストファミリーは優しい老夫婦で、一つ小さなお部屋を貸していただき、生活をさせていただいておりました。ブライトンは自然が豊かでええといろんな文化が垣間見られるような地域でして、ハイキングができるような大きな公園があったり、キャンパスの中にリスだったり狐だったり、そういった動物たちがいたり、海岸沿いの遊園地や、夏に海に行ったりしていました。

さて、大学院では主に 4 つの授業を取りました最初は開発学を中心に途上国支援がどのような歴史で行われてきたかということについて、歴史から学んできました。資本主義の歴史、またそこから生まれた植民地支配だったり、帝国主義、自由主義だったり、近代化、その辺りの流れを全て学んだ中、最終的に現状がどうであるのか。それに対する批判や反省もあるということがよくわかりました。その後、教育における権力の構造、ジェンダーの議論、教育と開発にまつわる議論をたくさんしました。理論と同時に教育政策の勉強もしまして、そう言った理論が、どのように政策を活かされているか、国際機関、各国政府が行っている支援事業、教育政策支援などを批判的に分析するといったような授業を受けました。また、私自身は教育とジェンダーの関わりについてすごい関心を持っていたので、教育に影響を与える複雑な社会構造、人々の特性、ジェンダー、宗教、民族人種、そういったものを細かく学んでいて、教育にどのように影響し合っているか、教育の問題を多角的に分析するといった授業を受けました。

植民地の歴史と国際教育について、驚くところがたくさんありました。私自身はあまり植民地支配について深く学んだ経験はなかったのですが、西洋の植民地支配というものがその地域の文化だったり、経済に大きな打撃を与えていて、現在の先進国と途上国の関係性を構築したのもそういった歴史が関係していること。そういったことに対して強い反感があったり、反省をしているということを学びました。また、外部の国や団体が地域の背景を考慮せずに支援を行った結果、途上国の状況が悪化してしまったケースがあるということも学びました。

写真は石井あゆ美さん。続きは別紙にてお読みください

そして自国でなく、ほかの国の教育について研究することについて、周りの生徒から、特に途上国出身の生徒に批判されることが多々ありました。私自身、ネパールという国について研究したいと思っていたのですが、そういったことを発言すると、それはちょっと植民地主義的じゃないか、なんで君は日本の教育について学ばないんだと言われたりもしました。そういったところから開発分野で今後働くべきか、途上国の研究を行うべきかということを改めて考えさせられて、授業を受ける中で葛藤もありました。

教育とジェンダーについて勉強して行く中で、教育問題の背景には多様な要素が絡み合って居て、例えば歴史だったり、宗教だったり文化だったり、そういったものが深く絡み合った問題の解決には社会の背景や学制を分析する必要があるということにも気づかされました。特にジェンダー観や男女の役割は、社会によって考え方が異なっていて、長い歴史で構築されてきたということがあります。例えば、私が研究しているネパールという地域は、ヒンドゥー教がメインの地域なのですが、彼らにとっては彼らの社会の中で構築されてきたある種伝統の価値観であって、そういったものを外部者である私が研究していいものかなどもすごく迷いました。しかしながら、そういった反省をしっかりと知った上で理解した上で、実際に現地に行って当事者の声を聞いて、新たな視点を探る研究も必要なんじゃないかと感じました。そのため、修士論文ではネパールにおける女子中途退学を防ぐ包括的政策のあり方としまして、ネパールに実地調査に行って問題の解決方法について探る調査を行ないました。

そもそもネパールという地域はインドと中国の間、ヒマラヤ山脈の南側の山間地帯に位置する小国なのですが、早期婚などの伝統的干渉が強くて、中途退学する女子生徒が多いような状況です。また、中退の要因は多様で複雑で。中退してしまった女子が母親になって、そしてその母親が自分の娘に対して中退を強要してしまうといった世代間で中退が連鎖してしまうといった問題も生じています。このため、学校内で中退をなくす方法、中退の教育支援がどちらも必要ですが、学校での中退抑止策だったり、学校外での支援状況に関する研究は少ない状況になっています。それを踏まえて、学校教員と NGO 職員にインタビューをして中退する生徒の状況中退前で中退後の支援の状況と問題を明らかにする。そういった目的の修士論文をすることにしました。

ネパールという国は、日本人としてはやはりすごい共感するというか、共通点もかなり多いような地域でして、先ほどヒンズー教がメインの国と言いましたが、実は仏教のお釈迦様が生まれた場所もネパールの南側にあるということもありまして、仏教も根強く信仰されています。日本の、神社とお寺が一緒にあるといった環境とかなり似ているんじゃないかなと思いました。食べ物もご飯を中心としていて、おかずが何種類かあるような定食のようなものを食べているので、そういった意味でも私にとってはかなり過ごしやすいと感じるような場所でした。修士論文の実地調査を行った際、現場の人々は本当に友好的で熱量がすごく高くて、そういった問題の現状だったり、彼らの声を直接私に対して好感を持って快く研究に協力してくれました。学校と外部の NGO が連携を取っていて、大学や大学生や地元のビジネスマンを巻き込んで、地域主体での支援の輪というものが広がっていました。奨学金を NGO が提供してあげていたり、学校の中に入って勉強あんまりできない貧困状況にあるような子供たちを対象とした学習支援なども行っているというようなこともあって、かなり NGO の役割が大きかったのですが、その一方で NGO に頼りきりになってしまっているっていうような状況もありました。こういった問題の根幹には政府の対応の遅さや。公立学校でも完全無償化されていないというような点があるということが分かりました。

ここまで修士論文のお話をさせていただきましたが、イギリスでの暮らしはただただ勉強するということだけではなく、貴重な機会ですので、様々な国から来たコースメイト、ホームステイ先の方々、地元の方々との関わりも大切にしてきました。例えば、ブライトンの市内で行われているホームレスの人たちに対するボランティア活動に参加してみたり、コースメイトの子たちとサッカーのサークルを作って何回か試合に出てみたり、みんなでパーティーをしてみたり。そして現地のロータリーの皆様との交流についてなのですが、サイモンさんとセシリアさんというお 2 人のご夫婦に現地でのカウンセラーをして頂きまして、ホストクラブの例会に参加して、自分自身の研究についてお話をしたり、カウンセラー以外のクラブの方々とお話しをしたりさせていただきました。そのほかのロータリーの方々やほかの奨学生の方々と交流させていただきました。本当に充実した一年となりました。

私の今後についてなんですが、現在はイギリスから帰って来まして、ケアインターナショナルという国際 NGO でインターンをさせていただいております。主にこの組織はアジア地域等で、女性の教育や健康分野の事業を行っている NGO でして。私はそちらで SNS などを使った広報インターンさせていただいております。そして、1 月からは二年間、jica の青年海外協力隊というプログラムでマダガスカルに派遣されることになりました。私の場合は若い妊産婦と母親への健康教育に関するお仕事をさせて頂き。家庭訪問などを行って子供の身長体重を測ったり、妊産婦や母親の栄養状況に関する調査あるいはガイダンスなどを行うといったようなお仕事です。今回学んだ専門分野とは違うのですが、現場での実践経験をつけることや子供の成長に関する多角的な知識を習得することを目指します。また、マダガスカルはフランス語圏で、私はこれまでフランス語を学んだことはなかったのですが、英語とフランス語がしゃべれるトリリンガルの専門家になるという視点からも、この機会は重要だと考えまして、こちらに行かせていただくことになりました。

最後に今回、グローバル奨学金を頂き、イギリス大学院で過ごした一年は、私の人生の中で最も充実した一年でした。日本では全く学べなかった新たな学問的視点や世界各地から集まってきた多様な国籍背景を持つ仲間との出会い。そして異なる文化や考え方に触れて、自分自身の価値観が変化したり、自分自身のキャリアを見直す機会になりました。また、ひとりで暮らして、ほかの地域で全く右も左もわからない中、生活して行く中で、家族や身の回りの方々の存在のありがたみを改めて実感する機会となりました。本当にこのような奨学金があったおかげで、わたくしはイギリスに行く事ができて、たくさん学ぶことができました。ロータリークラブの皆様のご支援には深く感謝申し上げます。ありがとうございます。これからは学友会に入りましたので、これからほかの国で大学院を志そうとしている後輩の皆様のご支援をさせていただきたいなと考えております。このような素晴らしい奨学金を次世代に繋ぐために、私も未熟ですが、がんばりたいと考えておりますので、どうぞ皆様、今後ともよろしくお願いいたします。

卓話の最後には、地区「平和フェロー・奨学金委員会」委員長でもある大箭剛久会員からの挨拶もありました。